

校内研修計画

山梨市立加納岩小学校

1 学校課題

- ・確かな学力
- ・思考力・判断力・表現力

2 研究主題

確かな学力の育成

～「楽しい」・「できる」・「わかる」・「力がついている」を実感できる授業実践～

3 主題設定の理由

本校で課題となっている「思考力・判断力・表現力」のような力は、問題解決的な学習の学習過程で育まれる。なぜなら、その学習過程において「思考力・判断力・表現力」等の力がくり返し使われるからである。本校において算数科の課題となっている「発展的な学習」についても、課題そのものや課題提示のしかたを実態に合わせて工夫することや、子どもたちの分からなさに寄り添うなど、学習過程を大切にして学習活動を進めることができれば、改善されていくものと思われる。というのは、発展的な学習においても、子どもたちにとって全く必然性のない学習であったり、正答へ到達する最短距離を覚える学習であったり、パターンを覚える学習であったりで、ここでも効率や結果が重視されることになっているからである。

子どもたちが「楽しい」、「力がついている」等を実感できる授業は、子どもたちの主体的な学びが保証された授業である。子どもの主体的な学びを引き出すためには、目の前の具体的な子どもたちの実態を理解することがまず必要である。実態を考えずに進められる授業は、教師の都合のみで進められる授業であり、子どもたちにとって全く受け身の授業となるからである。算数科には算数科の教科として身に付けさせたい知識や技能があるから、全く子どもたちの興味関心等の実態だけに寄り添って授業を進めていくことはできないが、目の前の子どもたちの実態を考慮し、願いをもち、それを達成するために教材や発問、授業形態等を工夫していくことによって、少なからず主体的な学びへと近づけることができるだろう。その工夫や授業実践の積み重ねが、子どもたちが、「楽しい」・「できる」・「わかる」・「力がついている」ことを実感することにつながっていくだろう。以上の理由から、主題、副主題を設定する。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 内容

- ・児童の実態に即した授業構想
- ・算数科の授業研究会
- ・子どもの実態の理解と実態に即した授業構想、教師の支援についての検討
- ・家庭学習の充実
- ・特別支援や保健に関する研修

(2) 方法

- ・「子どもの実態」、「めざす子どもの姿」、「手立て」の3点を明確にして授業を構想する。指導案には、3点を明確に書き、授業者の意図が参観者に伝わるようにする。
- ・全員がブロック内で授業を提案し、協議会をもち意見を交流し合う。日程は、校内研究計画を参照しブロック内で設定する。
- ・全体提案授業は、低中高それぞれ1本ずつ、計3本とする。初任研の授業と兼ねることもできる。

年間校内研修計画

研究主任 原藤 生府

研究テーマ	教科領域等	担 当	学年	時期	TC要請
「楽しい」・「できる」・「わかる」・「力がついている」を 実感できる授業実践	研究推進委員会 研究の方向性決定 研究基本計画	研究主任 研究主任	推進委員会 全体	4月	
	ブロック別研究 (確かな学力育成のための家庭学習について)	研究主任 各ブロック長	全体 ブロック	5月	
	・授業案検討 ■全体授業研究会 (算数)	各ブロック長 中学年ブロック	3年 3年	6月	
	特別支援・保健に関する研修	担当	全体	8月	
	○ブロック授業研究会	各ブロック長	ブロック	9月	
	・授業案検討 ■全体授業研究会 (算数)	各ブロック長 低or高学年ブ ロック	ブロック 各学年	10月	○
	○ブロック授業研究会	各ブロック長	ブロック		
	・授業案検討 ■全体授業研究会 (算数)	各学級担任 低or高学年ブ ロック	ブロック 各学年	11月	○
	・授業案検討 ○ブロック授業研究会	ブロック ブロック	ブロック ブロック	12月	
	■授業研究会・南中ブロック			1月	
	研究のまとめ 実践データ整理及びまとめ	研究主任 ブロック	全体 ブロック	2月	
成果と課題 来年度に向けて	研究主任	全体	3月		